

全労金2023春季生活闘争ニュース・第13号

～勝ち取ろう賃金改善！“みんなの春季生活闘争”で生活不安を払拭しよう！～

《合意速報No. 1》

静岡労組が金庫との団体交渉で、「基本合意」を表明しました！

静岡労組は、3月9日13時から金庫と「団体交渉」を開催し、満額回答が示されたことから、基本合意を表明しました。要求と回答は以下の通りです。

		要 求						回 答							
		正職員	準職員	LBパート	嘱託職員	再雇用 嘱託職員	再雇用 準職員	正職員	準職員	LBパート	嘱託職員	再雇用 嘱託職員	再雇用 準職員		
最低賃金		時間額1,040円、日額7,630円、月額160,100円 への引き上げ						要求通り 時間額1,040円、日額7,630円、月額160,100円							
基本賃金	改善内容	3,000円	3,000円	時給20円	3,000円	3,000円	時給20円	要求通り	要求通り	要求通り	要求通り	要求通り	要求通り		
一時金		4.8	2.0~4.0	1.1	現行+0.1			4.8	2.0~ 4.0	1.1	現行+0.1				
昨年実績		4.8 +30,000円	2.0~4.0 +30,000円	1.1 +30,000円	現行+0.1 +30,000円			4.8 +30,000円	2.0~4.0 +30,000円	1.1 +30,000円	現行+0.1 +30,000円				
安定雇用	無期転換	-				(実現)	-	-	-				(実現)	-	-
雇用環境	私傷病休職	-				(実現)	-	-	-				(実現)	-	-
	育児時短	-				(小学校3年生まで)	-	-	-				(小学校3年生まで)	-	-
単組独自要求		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

《金庫の発言概要》

2月27日に労組より要求書の提出を受けて以降、日本社会、そして、静岡労金を取り巻く様々な情勢は踏まえながらも、金庫として、労組の要求に基づき応えていくことを主体的に判断した。今年度の金庫事業の動向を見れば、中期計画「Connect R70」の中間年度として事業目標の達成を視野に入れることができていることは、職員・組合員の努力・奮闘の証である。このことに報いたいと考え、回答を決断した。静岡労金の成長と発展に向けて取り組むくすべての>職員・組合員に対し、月例賃金に対する一律的な回答を示した点で、この2023春季生活闘争は画期的な機会になった。次年度以降の展望を考えれば、先行きの不透明感、我々の目に厳しさとして映る。また、デジタル化の進展は、すでに変革する時期を迎えていることを意味している。加えて、会員企業においても、働き方の変化や、労組役員の任期の短縮化等、労働組合が向き合う課題も変化・多様化している。このような環境に対し、労働金庫として

も、変化そして柔軟に対応していくことが求められている。過去から今までの成功体験だけでは、発展はおろか維持も難しい。『会員利用者のために何ができるか』を真摯に突き詰めなくてはならず、その先に、組織が抱える課題を適切に捉えソリューションを提案するという、「労働者自主福祉運動の再構築」をめざしていかねばならない。そのために必要なチャレンジに対するモチベーションの源泉として、「人への投資」による金庫の回答を示した。静岡労金創立70周年を契機に、改めて私たちは、心をひとつにし、事業に取り組むことを通じて未来を創っていきたい。回答に込めた金庫の想いを、すべての職員・組合員としっかりと共有し合うこともまた、労使の大きな使命である。そのことを最後に確認し合い、2023春季生活闘争を締め括っていききたい

《鈴木闘争委員長の発言概要》

2023春季生活闘争要求に対し、要求通りとする旨の回答が示されたこと、そして、回答期日を待たず早期に判断いただいたことに対し、感謝を申し上げる。私達の要求に対し、金庫から満額回答が示されたことをもって、闘争委員会として「基本合意」を表明する。本日開催する拡大闘争委員会においては、回答内容、そして金庫からのメッセージについて認識を揃える場とすることを予定している。私たちが2023春季生活闘争にて掲げた「基本賃金の改善」要求は、「生活保障」の観点からは、「暮らしを守る」ために求めるべき水準であった。組合員は、「基本賃金の改善」が経営に与える影響を理解しているからこそ、金庫からの回答に大きな注目をしている。そのような環境下において、早期に満額回答が示されたことは、金庫から組合員へ「安全や健康を守ることの意識」がメッセージとして伝わり、組合員が静岡県労働金庫で「安心して働き続けられる」と感じる十分なきっかけになると確信している。私たちは、2023春季生活闘争、そして、金庫70周年を「ステージの転換点」「ターニングポイント」とすることを約束事に進んできた。金庫のシミュレーションにおいて、金融機関を取り巻く環境は依然として厳しいものであることが示される中、金庫経営陣が私たちの要求に対し満額回答を決断することは決して簡単ではなかったはずである。満額回答により示された経営の想いを受け止め、役員全員が気持ちを一つにし、労働金庫を未来につなげるために一人一人がチャレンジしていくことで「ステージの転換点」「ターニングポイント」が、実を伴った「転換点」に成ると考えている。

単組は、①例年よりも早い段階で、労使の課題認識を深いレベルで披瀝・共有しあうことができたこと、②労使の認識の一致を十分に諮ったうえで、辿り着いた「満額回答・早期妥結」であったこと、③「満額回答・早期妥結」が全労金統一闘争における、唯一であり、最大の役割発揮に繋がること、等から基本合意を表明しました。

*合意単組（1単組／3月9日16時現在）

静岡

以上